

世界無形文化遺産【能楽】



加賀宝生の魅力 能楽体験と “ろうそく能” 鑑賞会

鑑賞会

平成28年10月27日(木)
18:00開演 (17:15 開場)

狂言 栗 焼

能村 祐丞

ろうそく能 融

クツロギ

島村 明宏

料金【全席自由】

1,500円 (高校生以下無料)

※満席の場合、当日券を販売しない場合がございます。
チケットはお早めにお買い求めください。

【会場・お問い合わせ】

石川県立能楽堂 〒920-0935 金沢市石引4丁目18-3
TEL・FAX.076-264-2598



写真提供 /
(公社)金沢能楽会

体験

無料・要申込

平成28年10月27日(木)
15:30～(1時間半程度)

※15:00～受付開始

場所 石川県立能楽堂
定員 50名程度(お申し込み順)
内容 能舞台での体験、能装束等の鑑賞など
料金 無料

【お申込み・問い合わせ先】

◎主催 いしかわの伝統文化活性化実行委員会
(石川県文化振興課内) TEL:076-225-1372

※駐車場は台数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

チケットの
お求め

石川県立能楽堂
石川県立音楽堂チケットボックス (TEL.076-232-8632)
香林坊大和プレイガイド (TEL.076-220-1332)

◎主催

いしかわの伝統文化活性化実行委員会 石川県文化振興課内
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL.076-225-1372 FAX.076-225-1374



平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金

能楽体験

午後三時 受付開始
午後三時三十分〜午後五時

【内容】

- ・能舞台にて能（仕舞）の体験
- ・能舞台にて能楽の楽器体験
- ・狂言「栗焼」の一部の体験
- ・普段見ることのできない鏡の間の見学
- ・能面や能装束の鑑賞と解説



講師 金沢能楽会能楽師

宝生流 シテ方	渡邊 茂人
宝生流 シテ方	佐野 弘宜
宝生流 シテ方	松田 若子
森田流 シテ方	福岡 聡子
幸流 小鼓方	江野 泉
葛野流 大鼓方	住駒 俊介
観世流 太鼓方	飯嶋 六之助
和泉流 狂言方	麦谷 暁夫
	能村 祐丞

お願い：能舞台に上がる際、白足袋が必要です。
お持ちの方はご持参ください。

「ろうそく能」鑑賞会

午後五時十五分開場
午後六時開演

解説 ● 佐々木 香織（石川工業高等学校准教授）

狂言

栗焼

太郎冠者 ● 能村 祐丞

主人 ● 炭 哲男

後見 ● 山田 譲二

火入れの儀

能

融

クツロギ

シテ ● 島村 明宏

ワキ ● 平木 豊男

大鼓 ● 飯嶋 六之助
太鼓 ● 麦谷 暁夫
小鼓 ● 住駒 幸英
笛 ● 江野 泉

間 ● 中尾 史生

後見 ●

佐野 由於
広島 克栄

地謡 ●

山崎 健 高橋 右任
田屋 邦夫 渡邊 荀之助
松本 博 藪 俊彦
佐野 弘宜 渡邊 茂人

栗焼

くりやき

伯父から贈られた丹波栗が四十個。主人は、太郎冠者に栗を焼かせて、一族に披露することを思い立ちます。さて栗を焼く太郎冠者は、焼け飛ぶ栗に驚いたり、目を入れられて焼け飛はない栗を囁いたり、仕事は仕事で楽しんで、焼き上がった栗をつい試食に及びます。一つのつもりが全部平らげ、その言い訳にかまどの神三十六人に供えたとなります。残りは虫喰い、逃げ栗、追い栗、灰紛れで失せたと説明しますが、もちろん通じません。

融

とおる クツロギ

東国方から出た僧（ワキ）が都は六条河原の院に来てみると、汐汲みの老人（前シテ）が現れて塩竈の浦の風情を懐かしむ様子です。ここは洛中、汐汲みとは意外ですが、老人にいわせると、融の大が塩竈の浦に模した庭園ゆえに浦人を汐汲みと称して当然です。折から中秋の名月が出ました。往事の遊舞を思い返しなが、老人は河原院に移された塩竈の浦のいわれを語ります。風景模写というこの壮大な風流を、大臣亡き後は、相続する人もなく、荒れまざる一方です。昔が慕われてならないと嘆いた老人は、求めに応じて都の四方を見はるかにして僧に名所の数々を教え、興に乗じて汐汲みの業を披露したかと思うと、汐曇りに紛れて姿を消します（中入）。やがて僧の夢に現れた融（後シテ）は八月十五夜の月下を晴れやかに舞い遊びます。河原院の栄華を心に復しつつ、今いる月宮殿を重ね見せるかのようです。夜明けに月光が薄まるのと共に、融は面影を残して昇天します。

（金沢大学人間社会学域教授 西村 聡）

加賀宝生

金沢能楽会

五代藩主綱紀の時代より加賀藩では、能を愛好する藩主が続き幕末まで能役者を手厚く保護しました。

その一方で、細工所の職人たちにも能楽の一部を兼芸させ、教養を高めさせると同時に能の人材として育成し、また領民たちにも推奨しました。これにより、世に「加賀宝生」といわれるほどの能楽の盛んな土地がらとなりました。一時、幕藩体制の崩壊によって加賀宝生も衰退しましたが、佐野吉之助師の登場により、一九〇一年金沢能楽会が設立され、以来一〇〇年以上の長きに渡り、連綿と伝統を受け継ぎ現在にいたっています。

現在、石川県立能楽堂において定例能を催し、通算回数は一、一〇〇回以上に及んでいます。